



丸山はるみ いきいき通信 No.5

道政報告
2023年10月号



「ALPS 処理後の汚染水海洋放出の中止」を求めよ！

丸山道議は「ALPS 処理水の海洋放出に
関し、北海道は2020年
5月、国に対し、『万全
な風評被害対策』『発生
したときの十分な対策』
等を求めて要請を行って
いるが道内水産業に対す
る風評被害等影響の規模

道内水産業への影響
想定されず



9月5日開催の「水産林務委員会」で丸山はるみ道議は、ALPS処
理水の海洋放出の経過と対応について、道の姿勢を質しました。

被害状況の可視化に務
め全ての補償を求めよ

をどのように想定してい
たのか」と追及しまし
た。成沢企画調整担当課
長は「風評被害を生じさ
せない取り組みの徹底が
重要」との答弁を繰り返
し、影響規模については
想定していなかったこと
が明らかになりました。

海洋放出中止を求めよ

丸山道議は「国内での
反対の声が渦巻いている
中で海洋放出を決めたこ
と自体が問題。海洋放出
をやめるべき」と道の見
解を求めました。

丸山道議は「道内水産
への具体的な影響を想定
していなかったのは問題
だ」と強く批判。「漁業
者に対する風評被害への
補償について道として被
害状況を可視化し、全て
が補償されるよう国と東
電に求めよ」と迫りまし
た。

近藤水産局長が「情報
共有を図り、必要に応じ
て国に要請を行うなど適
時適切に対応して参る」
と答弁しました。

予期しない妊娠・相談7ヶ月で845件

丸山はるみ道議は9月5日、予期しない妊娠や出産に関する相談対応を
行う「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」を開設する札幌市
の社会福祉法人「麦の子会」を訪問し、懇談しました。

道内では2022年5月に当別町で「ベビ
ーボックス」（赤ちゃんポスト）が設置
され、翌6月にはJR千歳駅のコインロ
ッカーで乳児の遺体が見つかる等、支援
が届かない母子の存在が社会問題化し同
年12月にセンターは設立されました。平
日の夜間・休日相談を北海道の委託を
受けて実施しています。また、法人独
自事業として24時間365日対応の相談窓
口も開設。昨年12月から今年6月までの
SNS等で寄せられた相談件数は845件。
相談者はわかっているところで10代から
20代が大半を占めています。さらにセン
ターでは居場所のない相談者のために道



からの委託業務とは別に、妊娠34週から
産後2ヶ月までの滞在を想定した居住ス
ペースを用意しています。定員は2名で
常にいっぱいです。田中所長は「多くの
利用者は（これまでの境遇から）助けて
もらえると思っていない。助けてと言っ
ていい、助けてくれる人がいるんだよと
わかってもらい、巣立ってほしい」と述
べ、道内各地の保健所を周り、切れ目の
ない支援の体制構築を働きかけています。

必要不可欠！委託事業の維持拡充を求めて

道は来年度の委託について検討中とし
ており、24時間365日の支援体制が維持
できるか田中所長は不安を隠せません。

丸山道議は、妊娠に関する悩みにワン
ストップ型で24時間支援を行っている事
業の存続は「北海道にとって必要不可欠」
と述べ、切れ目のない相談体制の維持拡
充を行うため「道の委託事業の維持拡充
を求めていきたい」と語りました。

**にんしんSOSほっかいどう
サポートセンター**

「妊娠したかも・・・」「困った、どうしよう。」

妊娠したかも？ 生理がこない... 産んでも育てられない... 避妊に失敗した... 産にも相談できない...

ひとりで悩まず相談ください

経験豊富な専門スタッフがあなたの相談にお応えします。道内に在住する方ならどなたでも相談いただけます。

電話相談 ☎：080-4621-7722
メール相談 ✉：ninshin-sos@muginoko.com
来所相談 📍：札幌市東区北35条東9丁目1-14 西尾記念ビル3階
LINE相談 📱：24時間受付 相談はこちらから

相談時間 平日：17時～23時
土日祝日：9時～23時
年中無休で毎日相談を受け付けています。

秘密は守ります 相談は匿名でもOK 相談は無料です



—陸上でのサーモン養殖と林業人材育成の学校を視察しました—

自然状況に左右されにくい「陸上養殖事業」

エア・ウォーター北海道(株)は東神楽町で陸上養殖事業に参入。豊富な水産資源を有する北海道は、全国で約2割の漁業生産量を占める一方で、漁獲量の減少や漁業従事者の減少・高齢化といった課題があります。一般的な養殖モデルである海面養殖は海水温の上昇や自然災害の影響を受けやすいことから、自然状況に左右されにくい環境負荷の低い「陸上養殖」を、「杜のサーモンプロジェクト」として養殖プラント設計から設備の運転、メンテナンスまで一貫したパッケージで展開する「陸上養殖プラットフォーム」の取り組みを視察しました。

通常と比べ半分ほどの生育期間である2年後には、2.5キロほど

自然状況に左右されにくい「陸上養殖事業」

他業種と比べ労災件数が多いと言われる林業で、教育機関による人材育成を図る「道立北の森づくり専門学院」を訪れました。

高性能林業機械のシミュレーターを使い、木を切る作業に挑戦。学生たちが休み時間も自主的に練習を重ねると聞き、未来の林業人材に期待を抱きました。

2学年で定員40名中、女子学生が10名在籍と聞き、後日担当課にトイレへの生理用品の設置と、男性の多い環境であることから相談窓口のさらなる周知などを要請しました。

未来の林業人材に期待



シミュレーターを作業丸山道に挑戦する議論

「原子力防災計画・避難計画」北海道は責任を明確に!



岩内町役場との懇談

日本共産党道議団(真下紀子団長・丸山はるみ幹事長)は9月7・8日両日、共和町、岩内町、余市町を訪れ、泊原発で事故が発生した際の原子力防災計画や避難計画について調査を行い、北海道原子力防災センター調査、関係者との意見交換を行いました。

泊原発周辺における基準値振動を原子力委員会が最大620ガルから693ガルへの変更を了承したことに伴い、より巨大な地震が発生した場合の災害想定や避難計画の検討が求められますが、道は原子力防災計画改定に盛り込むことを検討していません。

入所者の避難には道の応援が必要

岩内町の手塚良人副町長は「避難時の要支援者1029名すべての個別計画を2025年までに作成する。長時間のバス避難に耐えられない人のために、一週間程度は放射線防護可能施設での屋内退避を行い、最終的には国や自衛隊が行う計画」と述べます。社会福祉法人「よいち福祉会」の亀尾毅理事長は、入所者の避難について「自力での車両確保だけでは困難。道に応援を求める必要がある」と道のイニシアチブの発揮を求めました。道は各医療機関、社会福祉施設の避難計画の「実態把握は市町村が行う」とのスタンス。

道議団は「道の責任をしっかりと果たさせ、現場の方の思いに寄り添った対策を求めています」と述べました。



亀尾理事長と懇談

「人手不足は深刻」人材育成に「力、注ぐ」～北海道中小企業家同友会 しりべし小樽支部を表敬訪問～



太田事務局長と懇談する丸山道議

8月30日、丸山はるみ道議は、北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部を訪問、太田秀吉事務局長に対応いただきました。

導入がせまったインボイス制度について勉強会を重ねているが、実際に始まってから対応に苦慮するケースが心配されること、最低賃金アップの政府の補助金はあまり利用されていない実態を聞きました。人手不足が深刻だが、新卒採用・人材育成をしてきた企業ほど影響が少ないなど、地道な営業努力の大切さを伺うことができました。国内企業の9割を占める中小企業で労働者の7割が働いている、これを支えるのが政治の責任であると痛感しました。

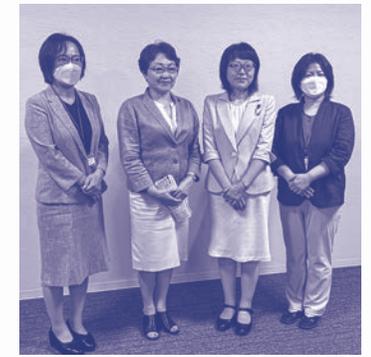
道庁前宣伝で「道内学校にクーラー設置求める」



今年の夏は暑かった。道内学校のクーラー設置率は極めて低い。小中学校で16.5%、高校に至っては0.7%。学力向上を求めるなら学習環境を整えるのは政治の責任です。設置にはお金も時間もかかる。だからこそ一日も早いクーラー設置の決断を求めます。

また、小樽でお産ができるクリニックが来年1月末で分娩取り扱いを終了することを取り上げ、医師不足・看護師不足に十分な対応を道に求めていくことを訴えました。

ナースアクションで全国的な運動に取り組む



看護師不足の解消を求め、民医連中央病院の看護師らが道議団を訪問。

看護師紹介一人につき80～100万円も派遣会社に支払う驚きの実態を告発。

待遇改善など人材確保のために責任を果たす道政実現のために頑張ります。

お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



丸山はるみ事務所

小樽市稲穂1-12-205
ステーションハイツ
☎64-5591 FAX64-5592